

令和 6 年 6 月 5 日現在

機関番号：17102

研究種目：若手研究

研究期間：2018～2023

課題番号：18K13913

研究課題名（和文）近代建築家ヴァン・モリヴァンのカンボジア内戦期における活動に関する研究

研究課題名（英文）Research on Vann Molyvann's activities during the period of Cambodian Civil War

研究代表者

岩元 真明（Iwamoto, Masaaki）

九州大学・芸術工学研究院・助教

研究者番号：50772513

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,200,000円

研究成果の概要（和文）：第一に、1971年にヴァン・モリヴァンがカンボジアから亡命した直後の軌跡が詳細に明らかになった。またモリヴァンがスイスにて設計に関わった建築が明らかになった。第二に、1979年から91年にかけて国連職員としてモリヴァンが関わった仕事の一角が明らかになった（Bujumburaにおける計画など）。第三に、1991年から2017年にかけてカンボジア和平成立後の復興期におけるヴァン・モリヴァンの活動が3つの観点から明らかになった。アンコール・ワット世界遺産登録およびアンコール地域保全に関する貢献、建築家としての仕事（プノンペン中央市場増築等）、東南アジア都市に関する研究活動。

研究成果の学術的意義や社会的意義

2017年9月に亡くなったクメール人近代建築家ヴァン・モリヴァンの生涯にわたる活動を把握しようとする本研究は、建築史・意匠研究分野の作家論として位置づけられる。日本や欧米においては、第二次世界大戦後の近代建築に関する研究は進展が著しい。しかし、東南アジアにおいては戦後の建築史研究はこれからの課題であり、長きに渡る内戦の影響を受けたカンボジアは研究上の空白域のひとつである。このような中で、クメール人初の公認建築家であり、カンボジアの近代建築の「父」とも称される建築家ヴァン・モリヴァンの活動を把握することは建築史的にきわめて重要である。

研究成果の概要（英文）：First, Vann Molyvann's trajectory immediately after his defection from Cambodia in 1971 was clarified in detail. In particular, it is important to specify the conference held in Israel that was the direct trigger of Molyvann's defection. In addition, the project that Molyvann was involved in Switzerland was revealed. Second, a part of the work that Vann Molyvann was involved in as a UN expert from 1979 to 1991 was revealed (such as the plan for Bujumbura). Third, Vann Molyvann's activities during the reconstruction period after the establishment of Cambodian peace from 1991 to 2017 were clarified from the following three perspectives: 1) his contributions to the registration of Angkor Wat as a World Heritage Site and the conservation of the Angkor region, 2) his work as an architect (such as the expansion of the Phnom Penh Central Market), and 3) his research activities (such as writing a doctoral thesis on Southeast Asian cities).

研究分野：近代建築史

キーワード：カンボジア 近代建築史 ヴァン・モリヴァン カンボジア内戦 東南アジア

## 1. 研究開始当初の背景

2017年9月に亡くなったクメール人近代建築家ヴァン・モリヴァンの生涯にわたる活動を把握しようとする本研究は、建築史・意匠研究分野の作家論として位置づけられる。日本や欧米においては、第二次世界大戦後の近代建築に関する研究は進展が著しい。しかし、東南アジアにおいては戦後の建築史研究はこれからの課題であり、長きに渡る内戦の影響を受けたカンボジアは研究上の空白域のひとつである。このような中で、クメール人初の公認建築家であり、カンボジアの近代建築の「父」とも称される建築家ヴァン・モリヴァンの活動を把握することは建築史的にきわめて重要である。内戦前の1950～60年代、モリヴァンは国家元首ノロドム・シハヌークに重用されカンボジアの都市と建築の近代化に貢献し、「新クメール運動」という近代建築と伝統建築を結びつける建築運動を牽引した。また、1965～67年には王立芸術大学初代学長を務めカンボジア初の建築・都市計画学部を創設してカンボジアにおける建築と都市計画教育の礎を築き、1967～69年には教育大臣を務めて中等教育の改革を行った。一方、カンボジア和平締結後の1991年以降は、国務大臣（文化・建設等を担当）やアンコール遺跡保存管理機構の初代総裁などの重職を歴任し、プノンペンの中央市場増築といった重要な建築プロジェクトにも関わった。このような内戦前後におけるモリヴァンの影響力の大きさを考えれば、彼の活動の全容解明は近代建築史にとどまらず、カンボジアの近代文化史・教育史・政治史に関わる課題である。ヴァン・モリヴァンの1950～60年代の建築作品群は Docomomo International や World Monuments Fund といった近代建築遺産の研究と保存にかかわる国際組織に注目されており、2000年代には欧米の研究者を中心として作品研究が始まっている。主な既往研究には Lisa Ros による "Architecture Moderne a Phnom Penh 1954-1970" (2001) や Helen G. Ross と Darryl L. Collins による "Building Cambodia: 'New Khmer Architecture' 1953- 1970" (2006) がある。2009年からカンボジア国内で活動する NPO 団体 Vann Molyvann Project はモリヴァンの現存作品の実測調査を行い、成果をインターネット上で公開している (<http://www.vannmolyvannproject.org/>)。研究代表者は2015年からモリヴァンの作家論研究を開始し、モリヴァンの建築形態に着目した研究等をおこなってきた(研究実績参照)。さらに、2017年5月には米コロンビア大学の Branden W. Joseph、Felicity D. Scott、Mark Wasiuta がグラハム財団の助成を受け "Vann Molyvann and the Absent Archives of Cambodian Modernism" という研究課題を開始している。しかし、これらはすべて1950～60年代におけるヴァン・モリヴァンの活動に着目した研究であり、内戦期の活動は研究対象に含まれていない。ゆえに、本研究の重要性がある。

## 2. 研究の目的

モリヴァンの内戦期の活動を把握する目的は二つある。第一に、内戦期の活動を把握することによって内戦後のモリヴァンの活動動機・思想・手法を考察することが可能となる。モリヴァンは「亡命中、スイスとケニヤとラオスにおいて環境リスク・マネジメントとソーシャル・デベロップメントを学んだ」(McGrath, Interview with His Excellency Vann Molyvann, PhD. Nakhara Journal of Environmental Design and Planning, vol.8, 2012, p.156. 拙訳)と述べており、内戦期の活動が内戦後の活動の背景となった可能性が高い。

第二に、内戦期の活動と比較することによって、建築家としての最重要時期である1950～60年代の活動と建築作品に関するより深い考察を可能とすると期待される。内戦以前にモリヴァンが書いたテキストは僅少であり、既往研究では内戦以後に行ったインタビューに多くを頼らざるを得なかった。内戦という断絶によって、作家研究を行う資料が決定的に不足しているのである。しかし、亡命中の活動が把握できれば、その直前の1950～60年代の設計思想に関する情報が得られる可能性が高い。また、亡命直後に身を寄せたスイスの親戚周辺には、1950～60年代の資料が運ばれた可能性もある。

## 3. 研究の方法

海外調査(スイス、カンボジア)におけるインタビューと文献調査による。

## 4. 研究成果

### 1) インタビューによる成果

①ヴァン・モリヴァンの娘(カンボジア在住)に対して行ったインタビューの内容を文献等と突き合わせて精査することによって、主に以下の事実が確認された。a) モリヴァンの妻子は1971年にスイス Murten の実家(アンペール家)に亡命、b) 翌年、モリヴァンはイスラエル経由でスイスに亡命。c) 以後、1979年まで、ローザンヌにおいて設計事務所に勤務、d) 1979～89年、ナイロビの UN Habitat に勤務、e) 1989～91年、Burungi にて、UN Habitat のミッションを継続、f) 1991々、国連を退職しスイス・Finhaut に移る、1992年、カンボジアに帰国。

②ヴァン・モリヴァンに協働した国連専門家 Guy Lemarchands (フランス在住) にインタビューを行い、内戦期におけるモリヴァンの活動の一端を把握した。具体的には、内戦期にモリヴァン

が国連に務めることになった経緯を把握した。亡命後、モリヴァンはスイスの設計事務所におけるスタッフの地位に甘んじていたが、バンクーバーで開催された国連の会議（1976年開催のHabitat I）においてGuy Lemarchandsと出会い、彼の勧めでナイロビのUN Habitatに務めることになった。Lemarchandsは建築家と技師を束ねるセクション・チーフであり、モリヴァンは同セクションの一員となった。

③ ヴァン・モリヴァンの息子（スイス在住）にインタビューを行い、ヴァン・モリヴァンがスイスに滞在していた時期（1971～79年、1990～96年）の足跡が把握された。具体的には、ムルテン、ローザンヌ、フィノーにおけるモリヴァンの滞在地を確認し、そこでの活動を検証した。

④ ヴァン・モリヴァンの義弟（スイス在住）にインタビューを行い、ヴァン・モリヴァンがスイスに滞在していた時期（1971～79年、1990～96年）の足跡を確認するとともに、内戦直前の仕事の内容（高等師範学校の設計）に関する新たな知見を得た。また、義弟が所蔵する文書を精査し研究上重要な新資料を発見した。1960年代の建築写真・工事写真、書簡に加え、ヴァン・モリヴァン後期の最重要作品である高等師範学校の原因（平面図・断面図・立面図）の新資料が見出されたことは意義深い。高等師範学校の原因については、デジタル化を行った。

## 2) 現地調査の成果

ヴァン・モリヴァンがスイスにて設計に関わった建築について現地調査を行った（スイス連邦工科大学の建築群、カフェテラス等）

## 3) 文献調査の成果

文献調査により、主に以下の項目について把握した。A) ヴァン・モリヴァンがスイスへと亡命するきっかけとなった国際会議の開催場所、日程、テーマ、モリヴァンの参加を示すエビデンス、B) ヴァン・モリヴァンがスイスからアフリカへ渡るきっかけとなったUN-Habitatの会議、C) ヴァン・モリヴァンのアンコール・ワット世界遺産登録に関する貢献。

以上のように得られた成果を、国際会議等を中心に学術発表した。また、研究の社会還元にも務めた。その内容は以下の通りである。

- ① 岩元真明. 「カンボジアの建築家・ヴァン・モリヴァンの材料選定」. 7th mASEANa conference (February 2019).

【概要】本研究で見出された新資料を用いながら、内戦直前のヴァン・モリヴァンの建築作品の材料選定について論じた発表である。

- ② 岩元真明. 「カンボジアの建築家ヴァン・モリヴァン(1926-2017)に関する建築史的研究：国家揺籃期における建築家の課題」, 2020

【概要】ヴァン・モリヴァンに関する博士研究であり、本研究の内容（亡命期の活動）は第五章のいち部を成している。なお、本論文によって、公益財団法人前田記念工学振興財団の山田一字賞を受賞した。

- ③ 岩元真明. 「ヴァン・モリヴァン設計の高等師範学校の設計・施工プロセスについて—スイスにて見いだされた原因に基づく考察」, 日本建築学会大会学術講演梗概集（建築歴史・意匠）（Sep 2020）

【概要】本研究で見出された新資料を用いながら、内戦直前のヴァン・モリヴァンの最重要作品である「高等師範学校」の設計・施工プロセスについて論じた。

- ④ 岩元真明. 「近代建築家ヴァン・モリヴァンの内戦前後の活動について」. 第14回カンボジア研究会（November 2020）.

【概要】本研究の途中成果として得られた内戦期間におけるヴァン・モリヴァンの活動について論じた。建築ではなく、広くカンボジア研究を行う研究者たちと意見交換することによって、研究の手法や意義に関する知見を深めた。

- ⑤ Masaaki Iwamoto, “Materials of Vann Molyvann: from Post-Colonial perspective”, the 16th International Docomomo Conference, pp. 534-539 (Sep. 2021).

【概要】①の研究をさらに深め、ポストコロニアリズムの観点から内戦直前のヴァン・モリヴァンの建築作品の材料選定について論じた国際会議発表である。

- ⑥ 岩元真明. 「近代建築家ヴァン・モリヴァンの内戦前後の活動について」. 東南アジア学会オンライン例会（June 2021）.

本研究の途中成果として得られた内戦期間におけるヴァン・モリヴァンの活動について論じた。建築ではなく、広く東南アジア研究を行う研究者たちと意見交換することによって、研究の手法や意義に関する知見を深めた。

- ⑦ 岩元真明「熱帯建築の系譜を解き明かす Jiat-Hwee Chang, “A Genealogy of Tropical Architecture: Colonial Networks, Nature and Technoscience”, NY: Routledge, 2016」. 建築討論（April 2022）.

【概要】ポストコロニアリズムの文脈から熱帯建築の検証を試みた Jiat Hwee Chang の著作の分析であり、カンボジアの近現代建築の政治性を相対化して理解する上で有用な知見が得られた。

- ⑧ Concrete in New Khmer Architecture. Symposium of Early Reinforced Concrete Buildings in Asia: Heritage Value and its Preservation, Tokyo (March 2023).

- 【概要】コンクリートという近代的建築材料に焦点をあてヴァン・モリヴァンの作品を検証し他の東南アジア諸国の近現代建築との相対化を図った。本研究で得られた新資料を活用。
- ⑨ Masaaki Iwamoto. Architectural Design and Architectural Historical Research in Southeast Asia. QAOS Kyudai Now Forum, Jakarta (Jan 2023).  
【概要】ジャカルタにおいて行ったヴァン・モリヴァンに関する講演であり本研究の成果の一部を発表し参加者からフィードバックを得た。
- ⑩ Masaaki Iwamoto. Study on History of Modern Khmer Architecture with Technology, Keynote, the 11th Scientific Day, Institute of Technology of Cambodia (May 2022).  
【概要】プノンペン の Institute of Technology of Cambodia において行ったヴァン・モリヴァンに関する基調講演であり本研究の成果の一部を発表し参加者からフィードバックを得た。
- ⑪ Masaaki Iwamoto. Studies on Vann Molyvann. ArCaDe Special talks, Silpakorn University, Bangkok (March 2023).  
【概要】バンコクにおいて行ったヴァン・モリヴァンに関する講演であり本研究の成果の一部を発表し参加者からフィードバックを得た。
- ⑫ 岩元真明。「これからのアジアの建築」. 末光弘和+末光陽子 / SUEP. 展ギャラリートーク, TOTO ギャラリー間 (30 August 2022).  
【概要】東京において行った東南アジア近現代建築に関する講演であり本研究の成果の一部を発表し参加者からフィードバックを得た。
- ⑬ 岩元真明「ヴァン・モリヴァン：激動の近代カンボジアを生きた建築家 その1」西山卯三記念すまい・まちづくり文庫 人と住まいと社会を考える研究部会 (Aug. 2023)  
【概要】京都において行ったヴァン・モリヴァンに関する講演であり本研究の成果の一部を発表し参加者からフィードバックを得た。
- ⑭ 岩元真明「ヴァン・モリヴァン：激動の近代カンボジアを生きた建築家 その2」西山卯三記念すまい・まちづくり文庫 人と住まいと社会を考える研究部会 (Feb. 2024)  
【概要】京都において行ったヴァン・モリヴァンに関する講演であり本研究の成果の一部を発表し参加者からフィードバックを得た。
- ⑮ Masaaki Iwamoto, Vann Molyvann and New Khmer Architecture, BeCAT x eghun workshop, JSA Siem Reap Office (March 2024)  
【概要】シェムリアップにおいて行ったヴァン・モリヴァンに関する講演であり本研究の成果の一部を発表し参加者からフィードバックを得た。

以上をもって、カンボジア内戦期におけるヴァン・モリヴァン活動及び、その後の活動の概略が把握され、研究の目標は達成された。ただし、Covid-19 の影響によりアフリカにおける調査を行うことができず、この時期の詳細探求は今後の課題として残る。

現在、本研究内容を含めたヴァン・モリヴァンの生涯に関する単著を執筆中である（2025 年出版予定）

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計7件（うち招待講演 4件 / うち国際学会 4件）

1. 発表者名 Masaaki Iwamoto
2. 発表標題 Concrete in New Khmer Architecture
3. 学会等名 Symposium of Early Reinforced Concrete Buildings in Asia: Heritage Value and its Preservation (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Masaaki Iwamoto
2. 発表標題 Architectural Design and Architectural Historical Research in Southeast Asia
3. 学会等名 QAOS& Kyudai Now Forum (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Masaaki Iwamoto
2. 発表標題 Study on History of Modern Khmer Architecture with Technology
3. 学会等名 the 11th Scientific Day, Institute of Technology of Cambodia (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Masaaki Iwamoto
2. 発表標題 Studies on Vann Molyvann
3. 学会等名 ArCaDe 160 Special talks
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Masaaki Iwamoto
2. 発表標題 Material of Vann Molyvann: From Post-Colonial Perspective.
3. 学会等名 16th Docomomo International Conference (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 岩元真明
2. 発表標題 近代建築家ヴァン・モリヴァンの内戦前後の活動について
3. 学会等名 東南アジア学会オンライン例会 (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 岩元真明
2. 発表標題 ヴァン・モリヴァン設計の高等師範学校の設計・施工プロセスについて-スイスにて見いだされた原図に基づく考察
3. 学会等名 日本建築学会大会 (関東)
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------